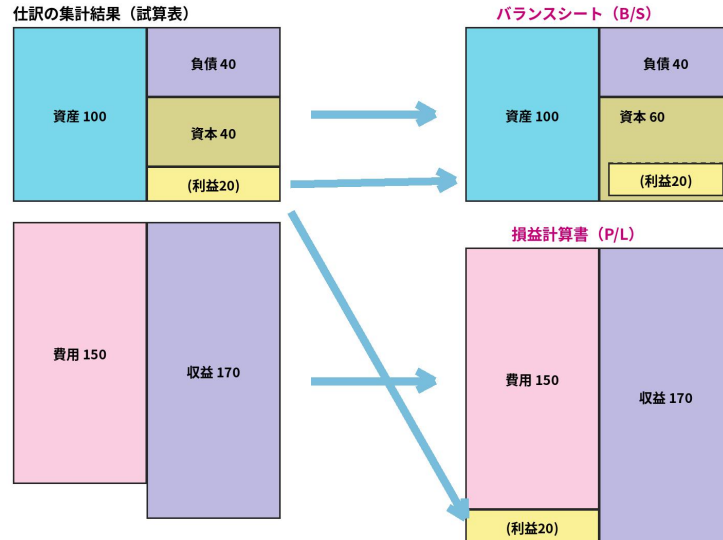


第 7 回の確認テスト（決算 I）

氏名： _____

問 1 次の勘定科目は「資産・負債・資本・収益・費用」のどれに当たりますか。空欄に記入しなさい。
【10 問】

思い出しヒント：受け取る権利・持っている物・売れ残りの商品＝資産／支払う義務＝負債／元手と積み立てた利益＝資本／『〇〇益』『受取〇〇』＝収益／『〇〇費』『〇〇繰入』＝費用



1. 繰越商品	2. 車両運搬具	3. 貸付金	4. 借入金	5. 未払配当金
6. 繰越利益剰余金	7. 固定資産売却益	8. 受取手数料	9. 貸倒引当金繰入	10. 減価償却費

問 2 次の取引の仕訳を書きなさい。【5 問】

科目：現金／売掛金／繰越商品／備品／貸倒引当金／減価償却累計額／仕入／貸倒引当金繰入／減価償却費／固定資産売却損

借方科目	金額	貸方科目	金額
------	----	------	----

問 1 得意先が倒産し、売掛金 20,000 円が回収不能となった。貸倒引当金の残高は 30,000 円ある。（ヒント：引当金で足りる）

--	--	--	--

問 2 決算：売掛金の期末残高 300,000 円に 2%の貸倒引当金を設定する（残高なし）。（ヒント：×2%）

--	--	--	--

問 3 決算：備品（取得原価 400,000 円、耐用年数 5 年、残存価額ゼロ）を定額法・間接法で 1 年分償却。（ヒント：÷5 年）

--	--	--	--

問 4 決算：期首商品 25,000 円、期末商品 35,000 円。売上原価は仕入勘定で計算（仕訳 2 本）。（ヒント：しくり・くりし）

問 5 備品（取得原価 200,000 円、減価償却累計額 120,000 円）を 60,000 円で売却し、代金は現金で受け取った。（ヒント：帳簿価額 80,000 ・ 3 行）

問 3 次の取引（主に決算整理）の仕訳を書きなさい。【10 問】（各問の（ヒント）を手がかりに）

科目：現金／未収入金／売掛金／繰越商品／建物／車両運搬具／貸倒引当金／減価償却累計額／売上／固定資産売却益／償却債権取立益／仕入／貸倒引当金繰入／減価償却費／貸倒損失

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
------	-----	------	-----

1 決算：期首商品棚卸高 40,000 円を仕入勘定に振り替える。（ヒント：しくり）

--	--	--	--

2 決算：期末商品棚卸高 50,000 円を繰越商品勘定に振り替える。（ヒント：くりし）

--	--	--	--

3 決算：受取手形 100,000 円と売掛金 400,000 円の合計に 3%の貸倒引当金。残高 9,000 円（差額補充法）。（ヒント：見積－残高）

--	--	--	--

4 決算：建物（取得原価 3,000,000 円、耐用年数 30 年、残存価額ゼロ）を定額法・間接法で償却。（ヒント：÷30 年）

--	--	--	--

5 決算：当期 12 月 1 日取得の車両（取得原価 600,000 円、耐用年数 6 年、残存価額 10%）を償却（決算日 3/31）。（ヒント：年 90,000×4/12）

--	--	--	--

6 得意先が倒産し、売掛金 50,000 円が回収不能。貸倒引当金の残高は 30,000 円（2 行）。（ヒント：足りない分は損失）

7 車両（取得原価 500,000 円、累計額 400,000 円）を 150,000 円で売却、代金は後日受け取る（2 行）。（ヒント：帳簿価額 100,000→益）

8 月次決算：備品の年間減価償却費 24,000 円について、当月分を計上する。（ヒント：÷12）

--	--	--	--

9 前期に貸倒れとして処理していた売掛金 15,000 円を、当期に現金で回収した。（ヒント：消した債権が戻る＝収益）

--	--	--	--

10 決算：期末の実地棚卸で商品が 30 個（@2,000 円）残っていた。期首商品は 70,000 円（仕訳 2 本）。（ヒント：30×2,000）

プラスα 余裕のある人はチャレンジ！【2 問】（ヒントなし）

α1 決算：貸倒引当金の見積額は 4,000 円だが、決算整理前の残高が 5,000 円ある（差額補充法）。

--	--	--	--

α2 当期首に備品（取得原価 120,000 円、既償却額 81,000 円）を 30,000 円で売却し、代金は現金で受け取った。

解答（問 1～問 3・α）

問 1 1 資産 2 資産 3 資産 4 負債 5 負債 6 資本 7 収益 8 収益 9 費用 10 費用

問 2 1. 貸倒引当金 20,000 / 売掛金 20,000 2. 貸倒引当金繰入 6,000 / 貸倒引当金 6,000 3. 減価償却費 80,000 / 減価償却累計額 80,000 4. 仕入 25,000 / 繰越商品 25,000 + 繰越商品 35,000 / 仕入 35,000 5. 減価償却累計額 120,000・現金 60,000・固定資産売却損 20,000 / 備品 200,000

問 3

1. 仕入 40,000 / 繰越商品 40,000 2. 繰越商品 50,000 / 仕入 50,000
 3. 貸倒引当金繰入 6,000 / 貸倒引当金 6,000 4. 減価償却費 100,000 / 減価償却累計額 100,000
 5. 減価償却費 30,000 / 減価償却累計額 30,000 6. 貸倒引当金 30,000・貸倒損失 20,000 / 売掛金 50,000
 7. 減価償却累計額 400,000・未収入金 150,000 / 車両運搬具 500,000・固定資産売却益 50,000 8. 減価償却費 2,000 / 減価償却累計額 2,000
 9. 現金 15,000 / 償却債権取立益 15,000 10. 仕入 70,000 / 繰越商品 70,000 + 繰越商品 60,000 / 仕入 60,000
 α1. 貸倒引当金 1,000 / 貸倒引当金戻入 1,000 α2. 減価償却累計額 81,000・現金 30,000・固定資産売却損 9,000 / 備品 120,000

【最終演習】小さな会社の決算を一巡する ― 試算表と整理事項から、損益計算書と貸借対照表を完成させる（15分）

荒川商事株式会社（会計期間 ×年 4 月 1 日～×年 3 月 31 日）。【資料 1】と【資料 2】にもとづき、①決算整理仕訳を書き、②次ページの損益計算書と貸借対照表を完成させなさい。

【資料 1】決算整理前残高試算表 ×年 3 月 31 日

勘定科目	借 方	貸 方
現 金	130,000	
普通預金	380,000	
売掛金	300,000	
繰越商品	60,000	
備 品	400,000	
仕 入	900,000	
給 料	240,000	
支払家賃	120,000	
支払利息	6,000	

勘定科目	借 方	貸 方
買掛金		180,000
借入金		200,000
貸倒引当金		2,000
減価償却累計額		80,000
資本金		500,000
繰越利益剰余金		64,000
売 上		1,510,000
合 計	2,536,000	2,536,000

【資料 2】決算整理事項

1. 期末商品棚卸高は 80,000 円である（売上原価は仕入勘定で計算：しくり・くりし）。
2. 売掛金の期末残高に対して 2%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
3. 備品について、定額法（耐用年数 5 年、残存価額ゼロ）・間接法により減価償却を行う。
4. 支払家賃 120,000 円のうち 20,000 円は翌期分（前払い）である。

進め方：①仕訳を 4 つ書く（しくり・くりし／差額補充／定額法／前払）→②収益・費用は損益計算書へ、資産・負債・資本は貸借対照表へ→③当期純利益が両方で一致すれば完成

① 決算整理仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				

② 損益計算書と貸借対照表を完成させなさい（表示名：仕入→売上原価、繰越商品→商品、前払家賃→前払費用）

損 益 計 算 書

荒川商事株式会社 自 ×年 4 月 1 日 至 ×年 3 月 31 日

（単位：円）

費用の部	金 額	収益の部	金 額
売上原価		売上高	
給 料			
支払家賃			
貸倒引当金繰入			
減価償却費			
支払利息			
当期純利益			

当期純利益＝収益合計－費用合計。最下段は合計行（左右一致）。

貸 借 対 照 表

荒川商事株式会社 ×年 3 月 31 日

（単位：円）

資産の部	内 訳	金 額	負債・純資産の部	金 額
現 金			買掛金	
普通預金			借入金	
売掛金			資本金	
貸倒引当金			繰越利益剰余金	
商 品				
前払費用				
備 品				
減価償却累計額				

売掛金と備品は「内訳」に金額と△控除額（貸倒引当金・減価償却累計額）を書き、差引を「金額」に。繰越利益剰余金＝整理前の残高＋当期純利益。最下段は合計行（左右一致）。

【最終演習 解答】① 決算整理仕訳 — 答え合わせのときに開く

荒川商事株式会社（会計期間 ×年 4 月 1 日～×年 3 月 31 日）。P3 の【資料 1】【資料 2】に対する決算整理仕訳。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕 入 繰越商品	60,000 80,000	繰越商品 仕 入	60,000 80,000
2	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000
3	減価償却費	80,000	減価償却累計額	80,000
4	前払家賃	20,000	支払家賃	20,000

計算のメモ

- 1 しくり・くりし：期首商品 60,000 を仕入へ、期末商品 80,000 を繰越商品へ。仕入勘定の残高 = $900,000 + 60,000 - 80,000 = 880,000$ = 売上原価。繰越商品の残高 = $80,000$ = 商品。
- 2 見積額 = 売掛金 $300,000 \times 2\% = 6,000$ 。決算整理前の残高 2,000 との差額 4,000 を繰り入れる（差額補充法）。B/S の貸倒引当金は 6,000。
- 3 $400,000 \div 5 \text{ 年} = 80,000$ 。累計額は $80,000 + 80,000 = 160,000$ 。帳簿価額 = $400,000 - 160,000 = 240,000$ 。
- 4 翌期分の家賃 20,000 を当期の費用から外して前払費用（資産）へ。支払家賃は $120,000 - 20,000 = 100,000$ 。翌期首に再振替（支払家賃 20,000 / 前払家賃 20,000）。

当期純利益の出し方：収益合計 1,510,000 - 費用合計（ $880,000 + 240,000 + 100,000 + 4,000 + 80,000 + 6,000 = 1,310,000$ ） = 200,000。この 200,000 が損益計算書と貸借対照表（繰越利益剰余金の増加分）の両方に現れる。

実務メモ：会計ソフトでは 1～4 を「決算整理仕訳」として入力した瞬間に、決算書が次ページの形で出力される。人がやるのは、期末在庫を数える・回収が危ない売掛金を確かめる・固定資産台帳を現物と照らす・年払いの契約を伝える、の 4 つ。

損 益 計 算 書

荒川商事株式会社 自 ×年 4 月 1 日 至 ×年 3 月 31 日

(単位：円)

費用の部	金 額	収益の部	金 額
売上原価	880,000	売上高	1,510,000
給 料	240,000		
支払家賃	100,000		
貸倒引当金繰入	4,000		
減価償却費	80,000		
支払利息	6,000		
当期純利益	200,000		
	1,510,000		1,510,000

売上原価 880,000 = 60,000 + 900,000 - 80,000 / 支払家賃 100,000 = 120,000 - 20,000 / 当期純利益 200,000 = 1,510,000 - 1,310,000。

貸 借 対 照 表

荒川商事株式会社 ×年 3 月 31 日

(単位：円)

資産の部	内 訳	金 額	負債・純資産の部	金 額
現 金		130,000	買掛金	180,000
普通預金		380,000	借入金	200,000
売掛金	300,000		資本金	500,000
貸倒引当金	△6,000	294,000	繰越利益剰余金	264,000
商 品		80,000		
前払費用		20,000		
備 品	400,000			
減価償却累計額	△160,000	240,000		
		1,144,000		1,144,000

繰越利益剰余金 264,000 = 整理前の残高 64,000 + 当期純利益 200,000。資産合計 1,144,000 = 負債 380,000 + 純資産 764,000。二枚は当期純利益 200,000 でつながっている。

8 回にわたり、ありがとうございました。お疲れさまでした。

簿記は、業種や会社の枠を越えて通じる「共通の会計用語」です。

取引 → 仕訳 → 帳簿・試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表。この言葉で、税理士とも、銀行とも、社内の誰とも数字の話ができます。

毎月、現金と預金を帳簿と合わせ、試算表を前月と比べてください。迷ったら顧問税理士に。皆さんの会社の数字が、少しでも身近になっていれば幸いです。

令和 8 年 9 月 17 日 講師 岡崎友彦税理士事務所 岡崎 友彦